

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	柏市新富地域ふるさと協議会
日時	令和元年8月3日(土) 午前10時～11時30分
場所	新富近隣センター 多目的ホール
参加者	ふるさと協議会役員等 : 14名 地域づくり推進部長 : 1名 新富近隣センター所長 : 1名 社会福祉協議会職員 : 1名 地域支援課職員 : 5名 地域づくりコーディネーター : 1名 合計 : 23名
次第	別紙のとおり
意見交換	<p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足解消への6つのキーワードは、当たり前のこと。重々承知していることだが、中々うまくいかないのが現状で、そこを掘り下げていかないと意味が無い。 ・特に解決策の中で、他とつながるといことがあるが、子育て世代には忙しいと言われてしまったり、どのようにしたらつながることができるのか。 ・役員になると必然的に1年間拘束されるので、夏まつりなどイベントで手伝ってくれる人がいるので、そこから繋がりをつくっていくことが重要。 ・NPOについても富士見町町会は夏祭りをNPOに協力してもらったりしているようだが、そもそも自分達の地域にNPOがいるのかどうかもわからない。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グッズの配布の目的は何か。配布の手伝いの時に連合会役員の姿が見えなかった。 ・柏市ふるさと協議会連合会とふるさと協議会のつながりが見えづらい。やることに目的となっているのではないか。 <p>柏市職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柏まつりでは気候の問題もあり、柏市ふるさと協議会連合会の役員を長時間滞在させるのではなく、自身のふるさと協議会の時間の中で出してもらっていた。また、グッズの配布は初の試みだった。

柏市職員

- ・背景としては、柏市ふるさと協議会連合会長が想うふるさと協議会の変革から、どうやってふるさと協議会を認知してもらうかという中で、できることからやっていくということで実施した。手賀沼エコマラソンでの絆創膏(啓発グッズ)配布も予定しており、来年度以降も継続していければと思う。

ふるさと協議会役員

- ・我々は町会長であり、町会員から町会費をもらって運営している。ここまで町会という言葉が出てきていない。
- ・ふるさと協議会の担い手は町会から選出されているとあるが、新富町町会は今年からやっとふるさと協議会とつながりが持てたくらいである町会がふるさと協議会をあまり理解しておらず、要綱・要領の無い団体は何なのかということから3年前に根本会長にまともてもらい説明を受けた。
- ・新富町町会や豊四季町会は規模が大きく、自分のところで精一杯なため、ふるさと協議会まで手が回らない。
- ・グッズ配布も、ただ配るのではなく経験者やプロの力を借りて有効的に動いてはどうか。

柏市職員

- ・市として町会の認知や周知の力を入れているのかについては、町会への支援や加入促進の方が今力を入れている部分である。ただふるさと協議会の活動が広がらない、参加者が減少していることについての問題意識は日々活動者から聞いている。それに対し、市としても連合会としても何ができるかということ動いてきた。

ふるさと協議会役員

- ・新富ふるさと協議会の進んでいないところはどこだろうか。
- ・根本会長は広報紙の中で、ふるさと協議会は町会をベースにした活動をするとっており、その言葉は素晴らしいものと感じた。
- ・「地域力を活かそう」という文言を使ったり、言葉には力があり、その地域の課題を話し合っていないと、会議も一般的になって流れていってしまう。その中で、町会1つ1つをどのようにサポートしていくか。

- ・会議も「今日来て良かった」と思えるようなものにしたい。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会と自治会との一体性は必要不可欠と思うが、南柏第一住宅自治会は、柏第二小学校と豊四季中学校には誰も行っておらず、旭東小学校と柏中学校のため、新富ふるさと協議会とはほとんど縁が無い。
- ・5年間町会長をやっているが、学区とふるさと協議会区域のズレについては、会員の方からも言われている。
- ・ふるさと協議会が30年以上続いている状態の中で、旭町ふるさと協議会に入るのは無理だと思う。そういったねじれの中で新富ふるさと協議会に協力しており、旭町ふるさと協議会には関われない。
- ・子どもたちも旭東小学校であり、登下校などの防犯パトロールもやりにくいので、何か1つ変えてもらえればと思う。

ふるさと協議会役員

- ・資料（別添）の右下にもあるように、新富域内の学校は柏第二小学校、旭小学校、豊四季中学校となっている。

ふるさと協議会役員

- ・学区が違うことと、南柏は商業地域が混在している。困っている事は、防災に関する情報が全然伝わっていない。5年間町会長をしているが、ようやくできてきたくらいである。
- ・学区も豊小学校なので防災訓練も豊小学校との関係があり、新富ふるさと協議会とどうつながればいいのか、そういった点を整理してもらいたい。（南柏町会の学区は豊小学校・中原中学校）
- ・災害時にお互いの顔がわからないことが改善されることは、今ふるさと協議会がやっている事業と同じことだと思う。ただ、会議が多すぎてやりにくく、防災という1点でつながった中で、連絡網が取れるような形を作ってもらえればと思う。
- ・南柏町会は、ふるさとセンターが災害時の一時的な避難所・連絡所ということをややく決める事が出来た。
- ・災害時はきっと一般の住民は町会のことわからないだろうし、町会同士の連絡も取らないだろうし、その中で連絡を取り合うこ

とができれば、ふるさと協議会も町会も一緒になることができるのではないかと思う。

- ・学区や地理的、組織的といったいろいろな問題があるので、それを突き詰めていけば、はっきりしたものが見えてくると思う。

ふるさと協議会役員

- ・町会とは何かという点で一番感じるところは「三世代」である。
- ・町会でもふるさと協議会でも話を聞いていると、子どもをないがしろにしていると感じる。
- ・後継者不足は町会の問題、親子会・子ども会は教育委員会、地域は地域支援課と縦割りと感じる。
- ・いま町会で取り組んでいる事は、後継者をつくろうと、子ども会の役員経験者を探して、繋がっていくような組織にしていること。
- ・周りの情報があって初めてできるのであって、それを得るためにふるさと協議会が一番大事だと考える。子どもたちが楽しみにしているふれあい運動会で、ふるさと協議会のことを知ってもらうようになれば良い。
- ・町会の中を歩いてみても子どもたちが少ない、母親が忙しいと感じる。
- ・6つのキーワードは昔から言われていることだが、中々解消できないのは、同じ人が同じようにやっているから新しい人が出てこないのだと思う。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会の構成する町会の範囲は、市が決めているのか。

柏市職員

- ・その通りであり、元々は昭和50年代にコミュニティ計画を策定し、その中で当時合併前の柏市内を17地域に分け、分けるに当たっては地域の町会と話し合っ、この分け方であれば、当時の地域活動を分断しないということで皆様方と話をし、今の区分けになった。

ふるさと協議会役員

- ・地域の区分けは当時からは30年ほど変わらず経っている、一方、教育委員会は学区をどんどん変えているため、地域と学区にズレが生じている。
- ・6つのキーワードで良い雰囲気をつくるの中にふるさと協議会組織の見直し（学区とのズレ）とあるが、これは柏市として地域にお願いしていることかもしれないが、ふるさと協議会自身が今の時代に合うような組織であるべきだと思う。例えば南柏町会で防災の問題があるのであれば、なにも新富ふるさと協議会に入る必要はなく、富里ふるさと協議会に入るなど再編成をここで行わないと、いつまでたっても防災でどっち行けばいいのか、運動会ときは子どもたちが行ってない学校で行わなければならないか、ここで他のふるさと協議会と連絡を取りながら、長い時間はかかると思うが編成替えも考えなくてはならないと思う。

ふるさと協議会役員

- ・南柏町会はJRで分断されており、豊小学校に行くのに線路を越えなくてはならない。選挙も同様である。防災に関して学区でやると問題が出てくる。動かないほうが良いともいわれているが、富里ふるさと協議会と新富ふるさと協議会の両方の区域にかかっているため、町会独自で動いたほうがいいのかとも思ってしまう。しかし、支援物資のことも踏まえるとふるさと協議会と連絡が取れないのも困る。
- ・防災について、子どもや老人など本当に困った人が出た場合を考えると、もっとスムーズに新富ふるさと協議会と町会と一緒にやらないとダメだというところわかっているのではないかな。
- ・昔ながらのままやると動きが遅いし、時間がかかる。もう少しコンパクトに、一本にできる体制をつくってもらったほうが楽にできるのではないかなと思う。

ふるさと協議会役員

- ・小さな町会にとっては、町会役員とふるさと協議会役員を兼ねているため厳しいと町会内でも言われている。その時、ふるさと協議会との大きな繋がり、行政との繋がりという点で説明するが、そこは何なのかと改めて考えると、自分自身上手く説明できない。

- ・吉野町会は青少協も柏中学校区であり、子どもの行事に関しては別々である。しかし、小さい子どもの母親には、行事は楽しみましょうと一生懸命説明はしている。
- ・防災の点は、新富地域の柏第二小学校や旭小学校の方ではなく、自分たちの子どもが通っている旭東小学校へ臨機応変に対応して避難しましょうと説明している。
- ・オヤジの会やPTAなど、子ども世代と繋がることのできる行事がやはり接点になると思う。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会は何かをやる事業体ではないと思う、各自治会のレベルを上げるような啓蒙活動をするべきだと思う。支え合いにしても、防犯にしても、自治会が中心だと思うので、ふるさと協議会が必要性を訴え、各自治会に意識を持ってもらう事がふるさと協議会の役割だと思う。
- ・防災も各自治会が中心となるが、自治会がまたがるような大型災害の拠点はふるさと協議会がバックアップする必要がある。ふるさと協議会内8町会と一緒に動くのではなく、学校ごとに動く。あくまでもふるさと協議会は各町会のサポート・活動の啓蒙役だと思うが、まだそこがはっきりしていない。

ふるさと協議会役員

- ・地域づくり推進委員が仕掛けを作って、防災情報交換会を3年前から始めた。防災訓練は新富地域一斉には無理なので、町会が中心で防災訓練をおこなっており、学校避難所運営についても学校ごとに主管町会を決めた。

柏市職員

- ・各地域によって町会が主に活動して、それをふるさと協議会がバックアップしている場合と、ふるさと協議会の事業が各町会の事業をフォローしている場合と形が色々ある。例えば、藤心地域は各町会ごとの祭りが困難ということで、ふるさと協議会として祭りを実施し、各町会が祭りをやらなくていいように負担軽減を図った。

- ・支え合いについても、各町会ごとに立ち上げている所もあれば、ふるさと協議会がまずは全エリアを網羅するグループを作っているところもあり、各地域によって状況は異なる。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会も大事だが、自分の町会に当てはめたときに、担い手が中々出てこず、子ども会も無くなりそうだがなんとかフォローしている。
- ・基本は町会がしっかりして、その上にふるさと協議会があると思う。
- ・リーダー研修のときにもまずは町会が大事、それからふるさと協議会という意見があった。どんなアイデアがあれば、役員の担い手がでてくるのか。出てこない要因のひとつとして、会長の仕事が非常に多い。
- ・仲間を増やすことについて、夏祭りの手伝いはいいが、他は勘弁してほしいという声もある。班長（1年交代）が夏祭りや防災訓練で一生懸命やってくれる人を引き込もうとしている。

柏市職員

- ・会長の仕事が多いという意見は、地域懇談会（今回5ヶ所目）全てで出ている。書類の簡素化など進めてきたが、重々承知しているので見直しをできる範囲で行なっていきたいと思う。

ふるさと協議会役員

- ・会長の仕事について言えば、道路工事や開発行為、ゴミ置き場関係など、週3日くらいの頻度で使用許可等の名目で会長のハンコを求められ、町会以外の仕事で時間を取られる。

ふるさと協議会役員

- ・基本的に町会ありきで考えないとだめ。
- ・以前は町会役員はリタイアした人でまかなえてたが、社協やその他の団体など、仕事量がものすごく増え、PCが使えることなど事務的なスキルがないと町会役員ができない。若い人（働き世代）を入れるには会議を遅めに設定したりすることが必要と思う。
- ・防災や子育て、支えあいについては、町会が充実していれば、対応できる。支え合いは、向こう三軒両隣という言葉があったが、

今はお金を取ってやろうという発想になっている。1件100円としてもお金をもらおうと責任感がでてしまうという声も聞くので、富士見町町会としては向こう三軒両隣を意識して進めて生きていたいと思っている。

- ・6つのキーワードは全て町会にも当てはまることなので、町会に持ち帰って報告したいと思う。
- ・社協はどこのふるさと協議会でも組織内にあるのか。特に反対ではないが、一緒になることで事務量が増える事がある。

柏市職員

- ・地区社協はふるさと協議会と一本化された経緯があるが、いくつかは分かれているところもある。

ふるさと協議会役員

- ・高齢者サロンを行なっており、一緒に活動してくれる仲間を増やすという点で、回覧をまわしても中々ボランティアが集まらない。なので、中にいる方が口コミで広めて新しい方を探している。

ふるさと協議会役員

- ・町会も仕事が多いが、民協会長をすると、町会・ふるさと協議会全て見ないといけないので、勉強になるが大変である。
- ・次の民生委員を選ぶにも新富地区という点で考えないといけないので、学区を考慮しないとイケない問題はある。

ふるさと協議会役員

- ・最初に役員を経験していくのはPTAからであり、小学校から中学校へ、そのまま町会の役員へという流れがあった。しかし、今は学校の手助けはするけど町会はしたくないという考えもあるような気がする。
- ・町会の活動が学区と関わっているなら、難しい部分はあるがやっけていくしかない。それも町会長だけでなく、ふるさと協議会という組織でやっているならばみんなで助け合っていければと思う。

ふるさと協議会役員

- ・担い手不足は永遠のテーマ。自分の時間を割くことが負担で、その中でどうしたら負担と感じさせない工夫が必要。

- ・良い雰囲気をつくる、お互いのコミュニケーションを図って、若い方・年配の方など、それぞれ考えの違いがあるというのが前提なのでお互い理解しあうことが大事。
- ・地域の住民もそれぞれの方が住んでいるので、町会がしっかり基盤としてあること、ふるさと協議会が町会をサポートしていける立場になっていく。
- ・それぞれの町会が持っている課題は地域特性があるという考えを理解したうえで、どうしたらその町会がより良くなるのか、話し合っていくふるさと協議会になれば良いと思う。
- ・防犯防災・支え合いについても向こう三軒両隣が希薄化しているのは原点を見直す必要があり、それでもできないというのはどうということなのか突き詰めて考えていく必要がある。

ふるさと協議会役員

- ・個人情報やK-Netが全然わかっていない部分があるのでもう少し考えて欲しい。
- ・お祭りでオヤジの会に町会の半纏を着て欲しいと依頼したところ断られた。問題が大きくなりPTAが出てきたり、マンション44世帯が抜けてしまったことは失敗だった。このとき防災のことを考えるとどうしたら良いかわからない。
- ・どこの部署が問題点を整理しているのか、簡略化すれば人手も少なくて済むと思っている。
- ・防災をテーマとした市から町会までの関係組織図のようなものがあるとわかりやすい。

ふるさと協議会役員

- ・旭小学校の避難所運営は豊上町会やつばめ自治会など、ふるさと協議会と関係なく構成できてしまっている。ふるさと協議会の学区の課題に対して見直しをしていかないと、毎回会議をやるたびに同じ話をして終わりという前進なき会議になる。

ふるさと協議会役員

- ・子連れ家族が地域に入ってきた場合は、向こう三軒両隣の意識できているが、子育てが終わり定年や高齢者くらいの方が入ってくると向こう三軒両隣の文化がなかなか出来づらい。支え合いサー

	<p>ビス利用者は、この地域で子育てをしていない人だった。この地域で子育てしてきた人は仲間がいる。</p> <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の時に一時保育を始めてみたが好評だった。 ・新富町会の役員の流れとしてこども会が終わったら何人かが町会の役員もやってくれた。
<p>いただいた ご意見の まとめ</p>	<p>主に次のような御意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと協議会の認知を高めるのであれば、まずは町会に対して行うのが良い。 ・啓発についてもマーケティングなどの認識を持って行ったほうが効果的。 ・町会がしっかり活気付くことが大事。 ・ふるさと協議会の役割として、ふるさと協議会主催の子どもイベントはとても好評である。各町会と繋がること出来る。 ・各町会の活動に対し、啓蒙したり支援サポートすることがふるさと協議会の役割である。 ・学区を始めとして、いまのふるさと協議会エリアで良いのかということは、従前より課題として上がっている。 ・南柏町会から、防災を主軸にしたコミュニティづくりができるのではないか。 ・防災では避難所は学校がメインとなってくるので、学校避難者と地域と繋がるのではないか。 ・会長が忙しい。開発行為や工事関係の会長のハンコ依頼が多い。 ・以前に比べて、会長の事務スキルが求められるものが増えてきた。 ・社協、青少協、防犯協会、消防団、子ども会、それぞれが異なる部署とつながっているためわかりづらい。もうすこし整理すれば地域の負担が減るのではないか。